大学生日常気分状態に関する一考察

—因子分析で落された項目を中心に—

○馮 晶¹ 鈴木 平²

(¹桜美林大学大学院 ²桜美林大学)

Key Words: mood, State

目 的

一時的で比較的持続して充満する感情状態と定義された気分は、二次元や三次元などさまざまなモデルで説明されてきたが、普段の日常生活の中で、起こりやすい気分と起こりにくい気分が存在していると考えられている。本研究は、大学生日常気分状態尺度(馮, 2008)を作る際に、因子分析で落され項目を用いて、その床効果があった項目を起きにくい気分、また天井効果があった項目を起こりやすい気分と定義し、数量化Ⅲ類により落された項目が一体どのようなものかを明らかにすることを目的とした。

方 法

■調査対象者：

都内の私立大学 389 名大学生を対象とした。そのうち、分析対象者は 354 名 (男性 113 名, 女性 231 名)、平均年齢は 19.23 歳・SD3.13 (男性 19.08 歳・SD2.41, 女性 19.30 歳・SD3.44) であった。

■手続きと分析対象：

自作した 78 項目に構成された質問票を用いて、都内の私立大学において、心理学に関する授業に、教室で質問紙による一斉調査を行なった。調査から得られたデータの中、天井効果が見られた Q72、床効果が見られ Q32、Q41、Q45、Q47、Q56、Q66 項目、また正規化していないおよび正の歪度を示した項目を加えて、最終的に 30 項目を分析の対象とした。

■分析方法：

カテゴリカルデータに基づく主成分分析ないし因子分析の方法としての数量化Ⅲ類による分析を行った。

結 果

数量化Ⅲ類による分析の結果は、カテゴリースコアと相関係数を算出し、第 1 軸、第 2 軸についてカテゴリーの分布図を作成した(表 1、図 1)。これらの図から以下のような解釈を行った。第 1 軸(固有値 0.002 寄与率 52.1% 累積 52.1% 相関係数 0.04)は「外的活動性」、第 2 軸(固有値 0.0003 寄与

表 1 カテゴリースコア表

カテゴリー名	1軸	2軸
Q2 誰にも話しかけられたくない。	-0.709926	-0.251845
Q14 何か怖いような気がする。	-0.752392	-0.397815
Q16 気が動転している。	-0.799824	-0.886640
Q17 いらいらしている。	-0.709926	-0.251845
Q18 がっかりしている。	-0.709926	-0.251845
Q20 いやな人の顔がすぐに思い浮か	-0.709926	-0.251845
Q24 悲しい。	-0.709926	-0.251845
Q25 孤独でさびしい。	-0.799824	-0.886640
Q27 泣きたい気持ちである。	-0.799824	-0.886640
Q32 罪悪感がある。	-0.709926	-0.251845
Q33 緊張している。	-0.677948	-0.530078
Q34 うんざりしている。	-0.850355	3.575647
Q37 みじめな気分である。	-0.709926	-0.251845
Q38 うろたえている。	-0.850355	3.575632
Q41 何かを壊したい。	-0.709926	-0.251845
Q44 途方にくれている。	-0.752390	-0.397816
Q45 怒っている。	-0.709926	-0.251845
Q46 希望が持てない。	-0.799824	-0.886640
Q47 他人に裏切られた気がしている。	-0.709926	-0.251845
Q52 他人にグチをこぼしたい。	0.363310	-0.125068
Q56 ケンカをしたい。	1.400583	-0.219447
Q61 興奮している。	1.362502	0.059479
Q62 つらい。	1.434992	0.081867
Q64 しらけている。	1.434993	0.081867
Q65 気分が高ぶってじっとしていられない。	1.362502	0.059482
Q66 愉快だ。	1.362502	0.059484
Q67 気持ちが沈んで暗い。	1.362502	0.059489
Q68 何か悪いことが起こりたくない心配。	1.362502	0.059491
Q71 焦っている。	1.362502	0.059492
Q76 動揺している。	1.434992	0.081867

率 7.4% 累積 59.5% 相関係数 0.17)は「静的内省性」と命名した。また、第 1 軸と第 2 軸によって 3 つのグループに分けることができた。グループⅠは「他人にグチをこぼしたい」などの表出性が高い活動的な気分、グループⅡは「孤独で寂しい」などの静的内省性をもつ気分、グループⅢは「うんざりしている」と「うろたえている」の表出性が低く、内省性が高く不満が多い気分と解釈された。

考 察

大学生日常気分状態尺度の因子分析で落され項目を中心とした分析結果は、日常生活の中で起きにくい気分として、コントロール可能性が高い「表出性が高い気分」と、内側に受け止め「内省性を持つ気分」の二つが存在していると考えられる。また唯一起こりやすいものとして「Q72 疲れた」は日常生活の中によく感じられているものとして存在していると考えられる。

(Jing FENG, Tiara SUZUKI)

図 1 カテゴリーに与える数量の分布図